

学校施設の複合化について

学習環境の向上に資する学校施設の複合化の在り方について(平成27年11月)

学校施設の複合化に係る基本的な考え方と計画・設計上及び管理・運営上の留意事項について取りまとめた報告書

※学校施設の在り方に関する調査研究協力者会議(部会長:上野淳 首都大学東京学長)において検討

○ 学校施設の複合化に関する現状

公共施設全体の背景

- ・人口構成や社会構造の変化等により、公共施設の利用需要が変化している。
- ・増大する維持管理費について、計画的整備により財政負担を平準化する必要がある。

学校施設に関する背景

- ・老朽化対策の検討にあたり、より効果的・効率的な学校施設の整備・活用が求められる。

➔ 学校施設と他の公共施設との複合化の需要が高まっている。



○ 現在の取組状況(令和4年9月1日時点)

公立小中学校等施設の複合化事例は、全国で **11,450** 校、全体の **39** %を占める。

学校施設の複合化の効果的な取組事例

① 施設機能の共有化による 学習環境の高機能化・多機能化



小学校と公共図書館との複合化により、豊富な資料を授業等で利用することが可能。
(志木市立志木小学校)

② 児童生徒と施設利用者との交流



小学校の余裕教室を改修し老人福祉施設等を整備。授業の一環として、施設に通う高齢者との交流を実施。
(宇治市立小倉小学校)

③ 地域における生涯学習や コミュニティの拠点の形成



小・中学校と、地域住民が生涯学習を行える公民館とを複合化し、地域の学習拠点を形成。
(南砺市立利賀小学校・利賀中学校)

④ 専門性のある人材や地域住民との 連携による学校運営の支援



体育館を社会体育施設とし、そこを拠点とする総合型地域スポーツクラブが体育の授業や部活動の支援も行う。(かほく市立宇ノ気中学校)

⑤ 効果的・効率的な施設整備 (1) 敷地の有効活用



中学校を、保育所や老人福祉施設、商業店舗等との複合施設としてPFI事業により整備。
(京都市立京都御池中学校)

(2) 既存の学校施設の活用



地域の待機児童の増加に伴い、中学校の余裕教室等を改修し保育所を整備。
(世田谷区立砧南中学校)